

# 「今こそキャリア教育への関わりを」

岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課  
生涯学習担当課長 佐藤 公一

「必ずこの故郷に戻り、自分も地域の再生・復興を担いたい。」

この数ヶ月、何度そういう青少年の決意が新聞で伝えられたことでしょうか。

無論、今までそういう思いを持った子どもたちがいなかったわけではありませんが、しかし、皮肉なことに、この百年に一度といわれる大地震津波を経て、明日の岩手を担うべき多くの若者たちが、尊い気づきと深い思いに辿りついたのです。

命と向き合い、生きる意味を極限の状況で問い直し、地域が身を寄せ合って支えあう姿を目の当たりにした時、小学生が、中・高校生が、誰に促されるわけでもなく自らの意思で、自分も何かしなければと動き出しました。「協力した」のではなく、渦中の地域住民の一員として「担い、支

えた」のです。

「郷土に誇りを持ち、未来を切り拓く子ども育成」は、今までも、そしてこれからも変わらぬ岩手の重要な教育課題です。実現のための取組は、先達から後進へと脈々と受け継がれてきました。それぞれの時代を背景に、体験的な活動を中心としながら、正にその「気づきと思い」を獲得させるべく、学校だけではなく、様々な立場の方々によって進められてきました。しかし、今回の悲劇は、それらの幾多の手だてを一蹴し、いわば劇薬のような機会となつてしまったのではないかとさえ思われます。

最近、キャリア教育という言葉をよく耳にします。端的には「生き方教育」と言い換えていいかもしれませんが、キャリア教育は、独立した領域ではなく、教育活動全体に関わるものであり、既に小学校のカリキュラムから位置づけられています。一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育であり、ここでのいう「キャリア」とは、「上級官僚」ではなく、「能力や態度を育む経験の積み重ね」を意味します。ある年齢に達すると自然に得られるものではなく、子どもの発達段階や発達課題の達成と深く関わりながら主体的に獲得されていくものなのです。

前から学校においても意図的に取り組まれてきたものの、それ以上に補う形で、地域社会での生活の中から子どもが自ら気づき、考え、必要な能力は身に付けるような機能が働いてきたような気がします。

今、中学校では、職場体験活動により、一定の職業や仕事を窓口としながら職業や仕事を知る機会とし、社会の現実を迫る取組が行われています。高校では、将来進む可能性のある仕事や職業に関連する活動を試行的に体験させ、それを手がかりに社会・職業への移行準備とすべく、インターンシップ（就業体験）が取り組まれています。

知識だけでは足りません。やってみなければ分からないこと、そういう場面になって初めて気づくこともあります。そして、それがその子どもの生き方を決定付ける契機となることも少なくありません。私は、今こそ、関係者で力を合わせ、本気でキャリア教育に取り組んでいくべきではないかと思つています。「復興教育」がいわゆるキャリア教育に防災教育を加えたものと考えてことができ

るものと思います。PTA活動でも、今までより更に踏み込んでキャリア教育を支えることができないうか。

軽米町教育委員会は、昨年、キャリア教育で文部科学大臣表彰を受けました。18年度から、中学校と町内を中心とした商工業者や企業等の協力を得て、両者の窓口役となり、職場体験学習を中心としたキャリア教育を継続的に支援して成果を挙げたことが評価を受けたものです。生徒や保護者、受け入れ先企業から、学ぶことが多くお互いをよく知るきっかけとなった、という好意的な反応が多く寄せられています。

盛岡にNPO法人未来図書館という団体があります。「自分の未来を考える際の多様な情報を蓄え与えてくれる図書館」と解すると、なんて素敵な名前なのだろうといつも感心するのですが、同団体は、キャリア教育の推進を活動の柱とし、職業人や企業と学校をつなぐコーディネートも行っています。多彩な職業人を一堂に集め、児童や生徒のグループが、それぞれを巡っているいろいろな話を直接聴くといったプログラム

は、とても魅力的です。

PTA専門部の一つに新たに「キャリア教育支援部」を置き、学校のニーズに基づいて学校と企業等をつなぐ（コーディネートする）役割を担うというのはいかがでしょうか。PTA会員には、多種多様な職業人がいらつしやいます。親として、子どもたちに自分たちの仕事を見せるとするのは、お互いにとってこのうえない価値ある機会となるに違いありません。

学校教育の充実、家庭や地域のもつ多様な教育力による支援の取組無くしてはあり得ません。家庭や地域の教育力もまた、様々な形で生かされてこそ高まるのだと思うのです。



佐藤公一氏 略歴

昭和37年生。安代町五日市小、二戸市福岡小、一関市舞川小を経て平成10年県教委事務局社会教育主事。一関小を経て18年大船渡市猪川小教頭、20年生涯学習文化課主任社会教育主事、22年より現職